

「ひとり、ともに。」  
— Alone, Together —

(アメリカ / オムニバス作品)

『それでも私はこうしてここに』

作 リン・ローゼン

『ママの子どもたち』

作 ジェイムズ・スティル

『Zoom オーディション』

作 ジェイミー・ブランドリ

翻 訳 浜野浩一

演 出 新見真琴

「隔 離」

(中 国)

作 李 健鳴

翻 訳 菱沼彬晁

演 出 奥田知叡

2021年9月16日(木)～19日(日)

シアターグリーン Base Theater

(第33回池袋演劇祭参加)

～コロナ禍で生まれた海外戯曲～

# Plays 4 Covid

## 孤読 / 臨読

全作品日本初演！ (リーディング上演)

「さあ、未知の劇場の  
姿とともに」

(ドイツ)

作 デーア・ローアー

翻 訳 庭山由佳

演 出 三輪えり花

「橋の上のワルツ」

(アイルランド)

作 ソニア・ケリー

翻 訳 石川麻衣

演 出 青柳敦子

## Plays 4 Covid へようこそ

永井多恵子（公益社団法人国際演劇協会日本センター 会長）

猛威を振るうコロナ禍の中で、人はいかに生き、怒り、笑い、又、思考するか、  
今回の【Plays 4 Covid 孤読 / 臨読 ～コロナ禍で生まれた海外戯曲～】は国際演劇協会の戯曲翻訳部会が海外のネットワークを通じてテキストを発見、俳優たちのリーディングという形で、皆さんと共有するものです。  
ITI 国際演劇協会は1951年以来、ユネスコ NGO として、現在、88 か国を結び、ユネスコ憲章の、「人々の心の中に平和を築こう」の理念を「演劇・舞踊」を通じて実現しようと活動しています。しかし、世界は今、「イマジン」でうたわれる「国境のない世界」を願いながら、凄惨な紛争を止めることが出来ません。コロナウイルスの脅威もまた、自然からの収奪に対する人類への警告なのでしょう。それがより貧しい人々、より弱い人々を苦しめています。  
今回はアメリカ、中国、アイルランド、そして、ドイツ、それぞれの国から、デア・ローアーがいう「シュールな世界」を生きる人々の声をお聞き届けください。

## コロナ禍の中の演劇

伊藤 洋（公益社団法人国際演劇協会日本センター 戯曲翻訳部会 部会長）

昨年（2020 年）の初め、2 月ころだっただろうか。新聞報道によると、ヨーロッパで新型コロナに感染者が続出して次々と死者が出た。次いでイタリアなどで早春の風物詩であるカーニバルを次々に中止せざるを得なくなった。  
あれからすでに 1 年半続いているコロナ禍である。今朝（9 月 7 日）のテレビ報道では、愛知県の野外音楽フェスティバルに集まった約 7000 人の人々の中からコロナ感染者が出たとの事である。未だに新型コロナウイルス拡大は収まる気配がない。我々も日ごろ注意しているだけに何とか感染しないで済んでいるようである。マスク着用、外出控え、密集禁止、黙食、外での飲食制限などには慣れざるを得なくなっている。

しかしよくよく考えてみると、これらの禁止ないし注意事項は、すべて「反・演劇」体制のものばかりである。いま劇場に入ると、「周りの方と会話はしないでください」とか、「退場の際は順番に間隔をあけてください」などのアナウンスがある。実際座席の周りにはアクリル板が張り巡らされていたりする。まさに演劇の世界に相反するものなのである。

言い換えれば、演劇はこういう縛り、制限からこそ、解放され抜け出すためのものではないのか。  
これこそが演劇存在の本来のあり方なのだと再認識する毎日である。

### 【STAFF】

音 響 山崎哲也  
照 明 斉藤舞台照明  
舞台監督 辰巳次郎  
撮影・配信 ステージチャンネル  
記録写真 渡辺 格

主 催 公益社団法人国際演劇協会日本センター  
企 画 国際演劇協会日本センター 戯曲翻訳部会  
制 作 青柳敦子 石川麻衣 一谷真由美  
票券・制作補佐 Real Heaven（佐藤武）  
著作権代理 株式会社シアターライツ

協力：エ・ネスト、演劇集団円、Envision Nextage、テアトル・エコー、劇団俳優座  
ベルジネタレントエージェンシー、ぐるっぽ・ちょいす、国際演劇協会日本センター英語圏部会  
THE DRAMATIC PUBLISHING COMPANY, of Woodstock Illinois



## ●「ひとり、ともに。—Alone, Together—」(アメリカ/オムニバス作品)

翻訳 浜野浩一 演出 新見真琴

『それでも私はこうしてここに』 作 リン・ローゼン

出演 テイラー：馬場太史 クリス：佐藤知恩

『ママの子どもたち』 作：ジェイムズ・スティル

出演 ママ：品川恵子 ジャック：馬場太史 トール：佐藤知恩 ジル：明澄

『Zoom オーディション』 作：ジェイミー・ブランドリ 出演 エミリー：明澄

# Aプロ

Produced by special arrangement with  
THE DRAMATIC PUBLISHING COMPANY, INC., of Woodstock, Illinois.

Commissioned and originally presented in June 2020 as part of the  
University of California, Santa Barbara, Department of Theater and Dance  
LAUNCH PAD Zoom Festival Alone, Together; Risa Brainin, Artistic Director.

隔離生活下、オンラインで対話する人々の孤独と希望を描いた米国の短編3作。

「それでも私はこうしてここに」は不器用な兄弟愛、「ママの子どもたち」は母からの謎の招集に戸惑う兄妹

「Zoom オーディション」はワイルダーの『わが町』に託して命の尊さを描く。

### ●Lynn Rosen(リン・ローゼン)

劇作家・TV脚本家。彼女の戯曲は全米各地で上演されている。

現在は三本のパイロット版が制作中。賞を受賞したコメディ・ウェブシリーズ『Darwin』では

共同クリエイターを務めている。劇作家協会ニュー・ドラマティスツの専属劇作家。

現在、レッド・ブル・シアターとシアターワークス・シリコン・ヴァレーに作品を執筆している。



### ●James Still(ジェイムズ・スティル)

ジェイムズ・スティルの戯曲は、全米、カナダ、欧州、南アフリカ、中国、日本で上演されている。

ピューリッツァ賞ノミネート4回、エミー賞ノミネート5回。

カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校演劇ダンス科 LAUNCH PAD では数本の作品が上演されている。

インディアナ・レパトリー・シアターの専属劇作家。ロサンゼルス在住。



### ●Jami Brandli(ジェイミー・ブランドリ)

ジェイミー・ブランドリの戯曲には「Technicolor Life」、「Through the Eye of a Needle」

女性・トランスジェンダー作家による優れた現代戯曲を毎年選出している「キルロイのリスト」および

ロサンゼルス・タイムズの批評家推薦作に選ばれた「BLISS(or Emily Post is Dead!)」がある。

彼女の作品は劇作家協会ニュー・ドラマティスツ、ニューヨーク・シアター・ワークショップ、ザ・ロード・シアター、  
ジ・ウィメンズ・ヴォイス・シアター・フェスティバルで上演されてきた。ヒューマンタス・プレイ LA 賞  
ジョン・ガスナー記念劇作賞、ホランド・ニュー・ヴォイシズ賞、オーロラ・シアターの GAP 賞などを受賞。



## ●「隔離」(中国)

作 李健鳴 翻訳 菱沼彬晃 演出 奥田知叡

出演 男：辰巳次郎 女：山下裕子

中国のある大都市。離婚した元妻のところに現れた元夫。そこへ突然の都市封鎖。

共同生活を強いられた男女の間から中国の隠れた世相が浮かび上がる。

### ●李健鳴

1943年生まれ。劇作家、演出家、翻訳家、演劇評論家。北京外国語大学卒業後、北京第2外国語学院

ゲーティンスティチュート北京(北京ドイツ文化センター)に奉職。1980年代に西ベルリン自由大学に留学

Free University of Berlin(1989年、ベルリンの壁崩壊)、演劇学を学ぶ。特にブレヒトの劇作と演劇理論を研究し

『ブレヒト自伝』などを翻訳。演劇の実践活動にも参加し、北京人民芸術劇院の演出家・林兆華の文芸顧問を務め

シェイクスピア作『ハムレット』、曹禺作『北京人』、デュレンマット作『ロムルス大帝』ブレヒト作『第二次世界大戦中のシュベイク』、

ゲーテ作『ファウスト』などの共同制作に参画。最近の翻訳は『レッシング7作品』、現代演劇のアンドレアス・ショート作『白い部屋』、

ロット・ウェクマンズ作『毒』、ボルヒェルト作『戸口の外で』、シェイクスピア作『ハムレット』、ブレヒト作『ガリレオ』の翻訳と構成にも

当たる。作劇・演出作品は『三人の女』(作・演出)、『愛情の印象』(作・演出、史鉄生作小説『務虚筆記』から改編)。劇作は

『屋上のオフィーリア』、『困城』(銭鐘書小説『困城』から改編)、『趙氏孤児』(元雑劇から改編)、『ゴドーを待ちながら』

(ベケット作『En attendant Godot』から改編)、『大鳥』、『隔離』、『人間(じんかん)』から迷走した6人の亡霊』など。



## ●「さあ、未知の劇場の姿とともに」(ドイツ)

作 デーア・ローアー 翻訳 庭山由佳 演出・出演 三輪えり花

ベルリン・ドイツ座の劇作家祭 2020 にデーア・ローアーが書き下ろし、作家本人により朗読された新作。  
ウィルスを媒介する動物と人間の共存を問いつつ、劇場再開を動物も待ち望む姿を描く。



photo by Alexander Paul Englert

### ●Dea Loher(デーア・ローアー)

ドイツの誇る、最も素晴らしい現代ドイツ人劇作家の一人。その作品は多くの言語に翻訳され、オーストラリア、スイス、フランス、英国、ギリシャ、フィンランド、デンマーク、ポーランド、チェキア(チェコ共和国)、日本、中南米と、世界中で上演されている。ドイツ国バイエルン州トラウンシュタイン出身、ミュンヘンで哲学とドイツ文学を、その後、ベルリン芸術大学にてハイナー・ミュラーとヤーク・カールズンケの下、劇作を学ぶ。1989 年よりベルリン在住だが、海外にもしばしば在住(主に南米)。1991 年にデビュー作『オルガの部屋』を初演。1995 年の『異郷の家』以来、ほぼ全作品を現代ドイツ演劇界最高の舞台演出家であるアンドレアス・クリーゲンブルクによって上演されている。デーア・ローアーは、ドイツ演劇界の重要な賞を全て受賞。主なものに、エルゼ・ラスカー・シューラー劇作家賞(2005)、アウグスブルク州ベルトルト・ブレヒト賞(2006)、ミュルハイム市劇作家賞(1998、2008)、マリールーゼ・フライサー賞(2009)、ベルリン文学賞(2009)などがある。直近の受賞は、2017 年のヨーゼフ・ブライトバッハ賞及び 2020 年のザムエル・ボグミル・リンデ賞である。

## ●「橋の上のワルツ」(アイルランド)

作 ソニア・ケリー 翻訳 石川麻衣 演出 青柳敦子  
出演 男：金子貴伸 女：一谷真由美 バスの運転手：田中英樹

男と女とバスの運転手。ある朝、三人の人生が橋の上で交差する。  
コロナ禍で他者との距離感を見失った私たちに語りかける現代の寓話。  
Druid Theatre Companyによる世界初演は2021年2月(サラ・ジョイス演出)。



### ●Sonya Kelly(ソニア・ケリー)

戯曲やテレビの脚本を手掛けるアイルランド人作家。  
デビュー作の一人芝居『The Wheelchair on My Face』は、2012 年エディンバラ・フェスティバルで新作戯曲賞を受賞し、米ニューヨーク・タイムズ紙の批評家が選ぶ一押し作品として紹介された。  
第二作目『How to Keep an Alien』は、2014 年ダブリン・フリンジ演劇祭で最優秀作品賞を受賞。  
国内をツアーした後、ブリスベン・フェスティバル、エディンバラのトラヴァース劇場、ロンドンのソーホー劇場、ニューヨークのアイリッシュ・アーツ・センター、ニュージーランドのオークランド・アート・フェスティバルなどを回る。  
ソニア自身がパートナーとビザ取得のために乗り越えたいくつもの壁を面白おかしく描いたロマンチック・コメディ。  
『Furniture』は、ドルイド・シアター・カンパニーが 2018 年ゴルウェイ・インターナショナル・アート・フェスティバルで上演し、アイルランド国内を回った。  
2019 年には、この作品でスチュワート・パーカー・トラスト賞とアイルランド作家組合最優秀新作戯曲賞を受賞。  
『橋の上のワルツ』は、2020 年のロックダウン中にドルイド・シアター・カンパニーから執筆を依頼された。  
見知らぬ人との距離や、他者と共有する空間について深く掘り下げた作品。